

2015 年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
研究所長名	松原 洋子

I. 研究成果の概要

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 年)および 2015 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうできるだけわかりやすく記述してください。

1. 全所的プロジェクトの推進

対人援助に関わる戦略的研究として全所的プロジェクト「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」を推進した。同プロジェクトは文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の最終年度にあたり、連携する研究拠点（生存学研究センター・R-GIRO 法心理・司法臨床センター等）等と協力しつつ、大規模な公開企画を複数回開催した。

2015 年 11 月には、同プロジェクトの成果研究会（兼研究所年次総会）を開催し、プロジェクト外部評価委員も招聘してプロジェクトの総括を行った。17 件のポスター発表も行い、専門研究員や大学院生等の若手研究者からも積極的な参画があった。なお、プロジェクトの研究成果として、シリーズ刊行物『インクルーシブ社会研究』を過去 2 年に引き続き、年度内に 8 号刊行し、ホームページ上でも公開している。

2. 学術誌の刊行・メディア媒体を使用した発信

『立命館人間科学研究』を 2 号刊行した。掲載論文 14 本のうち、13 本は外部査読者を含む 2 名以上の査読を経たものであり、10 本の論文の筆頭著者は若手研究者であった。また研究成果の社会的発信を促進するため、日英両言語により、イベント案内や「人間科学のフロント」（研究成果発信ページ）等、ホームページ上で積極的な情報発信を行った。

3. 研究所セミナーと公募型研究助成の実施

過去 2 年に引き続き、研究所主催の研究セミナー「アドバンスト研究セミナー」を 2 回開催した。また、研究所重点プログラムの資金を活用した競争的研究資金「萌芽的プロジェクト研究助成プログラム」は、10 件の応募に対し 5 件を採択した。全てが若手研究者の参画のあるプロジェクトであり、1 件の研究代表者が学会の優秀大会発表賞を受賞するなど、新しい研究プロジェクトの展開に貢献した。

4. その他研究の展開

全所的プロジェクト以外に、個々の研究プロジェクトがそれぞれ多様な進展を見せた。例えば、「多言語 DAISY テキストによる外国人児童の学習支援に関する研究」は、冊子『だれでも出来る PowerPoint で「テストの音声化」！』を作成し、読み書きが苦手な子どもたちの新たなサポート法の普及を図った。「男性介護研究会」は、大規模なシンポジウム「ケアメンサミット」を開催し、当事者同士の情報交換や研究交流を大いに促進した。「ナッジ研究プロジェクト」は、アドバンスト研究セミナー Vol.10 として、2014 年度開催のセミナーの続編といえる研究セミナー「ナッジ再考 ―自由・自律・責任―」を開催した。「療育プログラム開発プロジェクト」は、アメリカからの客員研究員の報告を中心とした研究会「自閉症スペクトラム児をもつ母親のストレス日米比較研究 -概要と中間報告-」を開催するなど、過年度から継続している研究をさらに発展させた。「心の防災プロジェクト」は、民間からの研究資金を得て、「未来のための思い出 ココロかさなるプロジェクト: 団士郎 家族漫画展」を通して「心の防災」の理論化を目指す研究を実施した。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2016年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

区分	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	松原洋子	先端総合学術研究科	教授
運営委員	松田亮三	産業社会学部	教授
	中村正	産業社会学部	教授
	山本耕平	産業社会学部	教授
	石倉康次	産業社会学部	教授
	土田宣明	文学部	教授
	谷晋二	文学部	教授
	矢藤優子	文学部	准教授
	安田裕子	文学部	准教授
	若林宏輔	文学部	准教授
	村本邦子	応用人間科学研究科	教授
	増田梨花	応用人間科学研究科	教授
	井上彰	先端総合学術研究科	准教授
	美馬達哉	先端総合学術研究科	教授
	稲葉光行	政策科学部	教授
浅田和茂	法務研究科	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	荒木徳積	産業社会学部	教授
	小澤亘	産業社会学部	教授
	大谷いつみ	産業社会学部	教授
	竹内謙彰	産業社会学部	教授
	津止正敏	産業社会学部	教授
	櫻谷眞理子	産業社会学部	教授
	秋葉 武	産業社会学部	教授
	野田正人	産業社会学部	教授
	峰島厚	産業社会学部	教授
	丸山里美	産業社会学部	准教授
	斎藤真緒	産業社会学部	准教授
	崎山治男	産業社会学部	准教授
	玉置えみ	産業社会学部	助教
	望月昭	文学部	教授
	サトウタツヤ	文学部	教授
	春日井敏之	文学部	教授
	星野祐司	文学部	教授
	東山篤規	文学部	教授
八木保樹	文学部	教授	
服部雅史	文学部	教授	

		北岡明佳	文学部	教授
		廣井亮一	文学部	教授
		山本博樹	文学部	教授
		中鹿直樹	文学部	准教授
		宇都宮博	文学部	准教授
		岡本直子	文学部	准教授
		団士郎	応用人間科学研究科	教授
		中村隆一	応用人間科学研究科	教授
		吉沅洪	応用人間科学研究科	教授
		立岩真也	先端総合学術研究科	教授
		小泉義之	先端総合学術研究科	教授
		松本克美	法務研究科	教授
		篠田博之	情報理工学部	教授
		川那部隆司	教育開発推進機構	准教授
		藤本学	教育開発推進機構	准教授
		朝野浩	教職教育推進機構	教授
		村上潔	衣笠総合研究機構	特別招聘准教授
		渡辺克典	衣笠総合研究機構	特別招聘准教授
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	斉藤進也	R-GIRO	専門研究員
		木戸彩恵	R-GIRO	専門研究員
		金成恩	R-GIRO	専門研究員
		徳永留美	R-GIRO	専門研究員
		植村要	R-GIRO	専門研究員
		由井秀樹	衣笠総合研究機構	専門研究員
		福田茉莉	衣笠総合研究機構	専門研究員
		中倉智徳	衣笠総合研究機構	専門研究員
		高誠晩	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント	伊藤京平	R-GIRO	リサーチアシスタント
	後期課程院生	廣瀬翔平	文学研究科	博士課程後期課程
		神崎真実	文学研究科	博士課程後期課程
		田 一葦	文学研究科	博士課程後期課程
		中田友貴	文学研究科	博士課程後期課程
		朝山洋樹	社会学研究科	博士課程後期課程
		小嶋理恵子	社会学研究科	博士課程後期課程
		金森京子	社会学研究科	博士課程後期課程
		富井奈菜実	社会学研究科	博士課程後期課程
		目黒（野村）朋	社会学研究科	博士課程後期課程
江頭典江		社会学研究科	博士課程後期課程	
深谷弘和		社会学研究科	博士課程後期課程	
岡部茜		社会学研究科	博士課程後期課程	
松元佑	社会学研究科	博士課程後期課程		
その他の学内者	小坂裕貴	文学研究科	博士課程前期課程	

	清水大地	文学研究科	博士課程前期課程
	野津伽耶子	文学研究科	博士課程前期課程
	齋藤絢子	文学研究科	博士課程前期課程
	宮地均三与	文学研究科	博士課程前期課程
	レベッカ・マイ・エカダル	文学研究科	博士課程前期課程
	谷上夏美	文学研究科	博士課程前期課程
	小島淳一	文学研究科	博士課程前期課程
	東向久美子	文学研究科	博士課程前期課程
	西田勇樹	文学研究科	博士課程前期課程
	菊池祥子	文学研究科	博士課程前期課程
	浦谷彩加	社会学研究科	博士課程前期課程
	許 昕	社会学研究科	博士課程前期課程
	吉尾玲美	応用人間科学研究科	修士課程
	渡辺舞	応用人間科学研究科	修士課程
	立花周太	応用人間科学研究科	修士課程
	遠藤祐希	応用人間科学研究科	修士課程
	村上歩未	応用人間科学研究科	修士課程
	河合誠也	応用人間科学研究科	修士課程
	西川大輔	応用人間科学研究科	修士課程
	横田聖子	応用人間科学研究科	修士課程
	三野範子	応用人間科学研究科	修士課程
	原田有紀	応用人間科学研究科	修士課程
	松岡園子	応用人間科学研究科	修士課程
	永井千晴	応用人間科学研究科	修士課程
	西川めぐみ	応用人間科学研究科	修士課程
	清水千由希	応用人間科学研究科	修士課程
	下本由香里	応用人間科学研究科	修士課程
	藤井彩瑚	応用人間科学研究科	修士課程
	生田祥子	応用人間科学研究科	修士課程
	田村友里	応用人間科学研究科	修士課程
	立花咲葵	応用人間科学研究科	修士課程
	磯井知子	応用人間科学研究科	修士課程
	破田野智巳	R-GIRO	拠点研究員
	村上嵩至	文学部	助手
	春日秀朗	文学部	契約職員
	織田涼	文学部	契約職員
	山崎校	文学部	非常勤講師
	吉田史明	文学研究科	研究生
	安田早紀子	産業社会学部	学士課程
客員協力研究員	石川 眞理子	龍谷大学等	非常勤講師
	上田 陽子	ファーストステップ・ジョブグループ	代表
	大川 一郎	筑波大学大学院人間総合科学研究科	教授

	高橋 伸子	なし	
	土田 菜穂	京都市北総合支援学校	常勤講師
	孫琴	なし	
	棟居 徳子	金沢大学人間社会研究域	准教授
	坂口 佳江	畿央大学等	非常勤講師
	松島 京	近代姫路大学教育学部	准教授
	金山 好美	立命館大学心理・教育相談センター	カウンセラー
	多田 美香里	関西福祉科学大学社会福祉学部	准教授
	高山 一夫	京都橘大学現代ビジネス学部	教授
	村上 慎司	公益財団法人医療科学研究所	リサーチフェロー
	荒木 美知子	大阪女子短期大学幼児教育科	教授
	乾 明紀	京都光華女子大学キャリアセンター	准教授
	松下健	富山大学付属病院神経精神科	技術補佐員
	古川心	立命館大学心理・教育相談センター	カウンセラー
	宮裕昭	市立福知山市民病院	主任臨床心理士
	村本詔司	神戸市外国語大学	名誉教授
	破田野智美	立命館大学文学部	非常勤講師
	對梨成一	立命館大学文学部	非常勤講師
	春日彩花	大阪大学人間科学研究科	博士課程後期課程
	藤戸麻美	京都大学文学研究科	博士課程後期課程
	鏡原崇史	広島大学教育学研究科	博士課程後期課程
	安田祥子	京田辺市児童館	発達相談員
	山路美波	ソーシャルケアセンター	心理士
	Castoldi Valeria	Bicocca University	PhD Student
	戸名久美子	星ヶ丘医療センター	言語聴覚士
	安井美鈴	大阪人間科学大学医療心理学科	准教授
	中西真	奈良佐保短期大学	非常勤講師
	ポーター倫子	Washington State University	Instructor
	與久田巖	大阪夕陽丘学園短期大学	准教授
	都賀美由紀	なし	
	荒木晃子	NPO 法人卵子提供登録支援団体 OD-NET	理事
	天田城介	中央大学文学部	教授
	吉田甫	白川静記念東洋文字文化研究所	客員研究員
	山崎優子	R-GIRO	客員研究員
	山田早紀	R-GIRO	客員研究員
	上村晃弘	R-GIRO	客員研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	滑田明暢	滋賀大学国際センター	特任講師
	小西祥子	東京大学医学部	助教

	北原靖子	川村学園女子大学	教授
	井上洋平	佛教大学社会福祉大学	准教授
	荒井庸子	浜松学院大学	講師
	小田博子	人間科学研究所高齢者プロジェクト	
	箱岩千代治	人間科学研究所高齢者プロジェクト	
	後藤玲子	人間科学研究所高齢者プロジェクト	
	片桐直哉	人間科学研究所高齢者プロジェクト	
	吉村昌子	人間科学研究所高齢者プロジェクト	
	中原咲子	あひるくらぶ	
	津幡法胤	あひるくらぶ	
	中村嘉宏	有馬病院	心理職員
	佐藤洋作	NPO 法人文化学習協同ネットワーク	代表理事
	野中康弘	社会福祉法人一麦会	事務局次長
	古庄健	全国若者支援連絡会議	
	Lin Shuzhen	筑波大学大学院人間総合科学研究科	博士課程後期課程
研究所・センター構成員 計 171 名 (うち学内の若手研究者 計 57 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2016年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	稲葉光行(編)	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究(インクルーシブ社会研究15)	編著	2016年3月	立命館大学人間科学研究所		160
2	松田亮三(編)	日本とイングランドの公衆衛生機構(インクルーシブ社会研究14)	編著	2016年3月	立命館大学人間科学研究所		91
3	Mitsuyuki Inaba & Kosuke Wakabayashi(編)	Transparency of Interrogation: Innovative Data Recording and Analysis by the Human Science (インクルーシブ社会研究12)	編著	2016年3月	立命館大学人間科学研究所		183
4	若林宏輔	裁判員制度への応用社会心理学アプローチ	単著	2016年3月	ナカニシヤ出版		288
5	松田亮三	2015 International Profiles of Health Care Systems.	共著	2016年1月	The Commonwealth Fund	Elias Mossialos, Martin Wenzl, Robin Osborn and Sarnak, Dana eds.	107-114
6	稲葉光行	尼崎事件～支配・服従の心理分析	共著	2015年12月	現代人文社	村山満明・大倉得史	229-243
7	稲葉光行・松田亮三(編)	対人支援における<学=実>連携の展望(インクルーシブ社会研究8)	編著	2015年11月	立命館大学人間科学研究所		195
8	Sato, T.	Psychology as the Science of Human Being - The Yokohama Manifesto	共著	2015年10月	Springer	Valsiner, J., Marsico, G., Chaudhary, N., Dazzani, V.	375

9	サトウタツヤ	心理学の名著 30	単著	2015 年 10 月	ちくま書房		286
10	Sato,T.,	Body, Mind, and Movement: Some Proposals for Constructing a Socially Inclusive Psychology Based on Developmental and Cultural Principles.	共著	2015 年 4 月	Information Age Publishing	Wagoner B., Chaudhary, N. , Hviid, P., Kasuga,H., Kanzaki,M., 福田茉莉	265-276
11	荒木穂積・竹内謙彰(編)	自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発の実際(インクルーシブ社会研究 13)	編著	2016 年 3 月	立命館大学人間科学研究所		131
12	津止正敏	ケアメン・コミュニティのマネジメント (インクルーシブ社会研究 10)	単著	2016 年 2 月	立命館大学人間科学研究所		109
13	山本耕平	「若者支援」のこれまでとこれから	共著	2016 年 2 月	かもがわ出版	太田政男・穴澤義晴・岡部茜、佐藤洋作・中川健史・永井契嗣・古庄健・南出吉祥・	75-89
14	谷 晋二	ケースで学ぶ行動分析学による問題解決	単著	2015 年 8 月	金剛出版		102-109
15	村本邦子・中村正・荒木穂積	臨地の対人援助学～東日本大震災と復興の物語	編著	2015 年 8 月	晃洋書房		78-86
16	津止正敏	仕事と介護の両立支援現場から考える一企業に求められる支援の在り方ー	単著	2015 年 6 月	労務行政研究所		32-47
17	野田正人	はじめて学ぶ生徒指導・教育相談	共著	2016 年 3 月	金子書房	本間友巳・内田利広 編著	122-133
18	斎藤真緒	『ケアする』ーケアはジェンダーから自由になれるか？『ジェンダーで学ぶ社会学(全訂新版)』	単著	2015 年 10 月	世界思想社		15 章
19	野田正人	現代生徒指導論	共著	2015 年 9 月	学事出版	日本生徒指導学会編 著	150-153
20	村本邦子・中村正・荒木穂積	臨地の対人援助学～東日本大震災と復興の物語	共著	2015 年 8 月	晃洋書房		1-8,43-51,96- 101,134-169
21	村本邦子・中村正・荒木穂積	臨地の対人援助学	共著	2015 年 7 月	晃洋書房		19-25, 191-198
22	松本克美	民事責任の法理	共著	2015 年 5 月	成文堂	滝沢昌彦他編	295-316
23	渡辺克典編	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」2(インクルーシブ社会研究 11)	編著	2016 年 3 月	立命館大学人間科学研究所		1-2,132-133
24	渡辺克典	生存学の企て——障老病異と共に暮らす世界へ	共著	2016 年 3 月	現代書館	立命館大学生存学研究センター編	113-141
25	松原洋子	「優生学」(翻訳)『スクリプナー思想史大事典』第9巻	共著	2016 年 1 月	丸善出版	野家啓一(翻訳編集 委員長)	3391-3397
26	立岩真也	精神病院体制の終わり——認知症の時代に	単著	2015 年 11 月	青土社		433
27	立岩真也	ひとつの精神史5『万博と沖縄返還——一九七〇前後』	共著	2015 年 11 月	岩波書店	吉見俊哉編・	257-284
28	渡辺克典	大震災の生存学	編著	2015 年 11 月	青弓社	天田城介	11-20
29	立岩真也	わらじ医者の来た道——民主的医療現代史	共著	2015 年 10 月	青土社	早川 一光・西沢 いづみ	59-193,227-230
30	松原洋子	『アジア・太平洋戦争辞典』妊産婦手帳	共著	2015 年 10 月	吉川弘文館	田裕ほか編	526
31	松原洋子	国民優生法	単著	2015 年 10 月	吉川弘文館		223
32	立岩真也	増補新装版 障害者殺しの思想	共著	2015 年 6 月	現代書館	横田弘	223-249

33	立岩真也	与えられる生死:1960年代— 『しののめ』安楽死特集/ あざらしっ子/重度心身障害 児/「拝啓池田総理大学殿」 他	単著	2015年5月	Kyoto Books		
34	立岩真也	セクシュアリティをことばにす る 上野千鶴子対談集「ケアの 値段はなぜ安いか」(対談)	共著	2015年5月	青土社	上野千鶴子	103-153
35	立岩真也	良い死 コリア語版 良い死 コリア語版・序文	単著	2015年5月	青年出版		8-14
36	渡辺克典	触発するゴフマン——やりと りの秩序の社会学	編著	2015年5月	新曜社	中河伸俊	i-viii,26-45
37	石倉康次	ソーシャルワークの倫理と 価値	監訳	2016年3月	法律文化社	サラ・バンクス(著)・ 伊藤文人・児島亜紀 子(監訳)	348
38	石倉康次	『介護保険白書』	共著	2015年4月	本の泉	佐藤信人・熊谷茂・廣 末利弥 吉田満・横 山壽一・芝田英昭・日 下部雅喜・伊藤 周 平・服部万里子・鶴田 禎人・濱畑芳和・森永 伊紀・曾我千春・柴崎 祐美・藤原るか・大森 正博・森周子・森詩 恵・荘 秀美	第5章
39	春日井敏之・ 増田梨花	2015年度ピア・サポートプロ グラムを活かした高大連携 プロジェクト—あゆみと展 望—	共著	2016年2月	立命館大学大学院 応用人 間科学研究科		61-71,72-82,95
40	増田梨花	臨地の対人援助学—東日本 大震災と復興の物語—	共著	2015年8月	晃洋書房	村本邦子・中村正・荒 木穂積(編)	125-133
41	美馬達哉	生を治める術としての近代 医療—フーコー『監獄の誕 生』を読み直す(いま読む!名 著)	単著	2015年7月	現代書館		246
42	美馬達哉	高校生と考える日本の問題 点(桐光学園大学訪問授業)	共著	2015年4月	左右社	内田樹・斎藤環・平田 竹男・金子勝・宇野重 規・湯浅誠・長谷部恭 男・姜尚中・田中優 子・白井聡・福嶋亮 大・伊東 豊雄・森山 大道・蜂飼耳・金森 修・榎木野衣・藤嶋 昭・小林富雄・吉田直 紀	244-258
43	井上彰	正義 (福祉+α)	共著	2016年3月	ミネルヴァ書房	宮本太郎・橋木俊詔 監修、後藤玲子編	157-167
44	井上彰	社会科学における善と正義 ロールズ『正義論』を超えて	共著	2015年5月	東京大学出版会	大瀧雅之・宇野重規・ 加藤晋	49-75
45	丸山里美	貧困女子のリアル	共著	2016年2月	小学館	沢木文	188-190
46	丸山里美	ジェンダーで学ぶ社会学(全 訂新版)	共著	2015年10 月	世界思想社	伊藤公雄・牟田和恵 編	94-95
47	丸山里美	下層化する女性たち	共著	2015年8月	勁草書房	小杉礼子・宮本みち 子編	113-139
48	春日井敏之	人間を生きるということ 「体験」の教育人間学に向け て	共著	2016年3月	文理閣	鷹野克己・福原浩之・ 鶴野祐介・山本昌 輝・鶴野祐介・加納友 子・原幸一	43-71
49	服部雅史	基礎から学ぶ認知心理学:人 間の認識の不思議	共著	2015年9月	有斐閣	小島治幸・北神慎司	
50	服部雅史(監 訳)	思考と推論:理性・判断・意 思決定の心理学	監訳	2015年4月	北大路書房	K・マンクテロウ (著)・山祐嗣	378
51	北岡明佳(監 修)	おぼけトリックアート3 おぼけめいるにチャレンジ	監修	2015年11 月	あかね書房	・グループ・コロンブ ス(構成・文)	32

52	北岡明佳	多角形百科	編著	2015年6月	丸善出版	細谷治夫・宮崎興二	218-221
53	北岡明佳(監修)	おぼけトリックアート2 たんけん! おぼけじま	監修	2015年6月	あかね書房	グループ・コロンプス(構成・文)	32
54	山本博樹	学校での効果的な援助をめざして	共著	2016年	ナカニシヤ書店	水野治久・家近早苗・石隈利紀(編)	
55	山本博樹	まなびのガイドブック	共著	2016年3月	立命館大学総合心理学部	立命館大学総合心理学部	
56	吉沅洪	『心理トラウマ治療技法の解析』(『心理創傷治療技術解析』)	編著	2016年3月	重慶出版社	陶新華	第1部第7章

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発表年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	由井秀樹	体外受精の臨床応用と日本産科婦人科学会の「見解」	単著	2016年3月	生存学研究センター報告(25号)		12-30	
2	由井秀樹	家族の形成と解体—不妊クリニックへの通院を経て里子を迎えた養育里親の語りから	単著	2016年3月	生存学研究センター報告(25号)		166-179	
3	稲葉光行	混合研究法としてのグラウンデッドなテキストマイニング・アプローチ	共著	2016年2月	看護研究(49巻1号)	抱井 尚子	25-36	
4	由井秀樹	戦前・戦中期東京府における医療施設出産	単著	2016年2月	保健医療社会学論集(第26巻第2号)		43-53	○
5	Ryozo Matsuda	Social Health Insurance as a Health Safety Net in Japan, the US, and France :An introduction	単著	2015年12月	Ritsumeikan Social Sciences Review(51巻3号)		3	
6	由井秀樹	男性不妊の不可視化と母性保護概念—非配偶者間人工授精は誰のための処置だったか?	単著	2015年12月	家族研究年報(第40巻)		7-23	
7	松田亮三	「社会保障・税一体改革」後の医療政策	単著	2015年11月	大原社会問題研究所雑誌(685号)		5-17	
8	サトウタツヤ	TEA(複線径路等至性アプローチ)	単著	2015年8月	コミュニティ心理学研究		52-61	
9	木戸彩恵	幼児期から青年期にかけて衣服を選び、着る行為の変容—女子大学生を対象としたインタビュー調査から—	共著	2015年8月	立命館人間科学研究(第32号)	荒川歩・鈴木公啓・矢澤美香子	85-103	○
10	安田裕子	コミュニティ心理学におけるTEM/TEA研究の可能性	単著	2015年8月	コミュニティ心理学研究(19巻1号)		62-76	
11	サトウタツヤ	文化心理学から見た食の表現の視点から食文化とその研究について考える	単著	2015年7月	社会システム研究		197-109	
12	山田全啓	イングランドの公衆衛生改革	共著	2015年4月	医学のあゆみ(253巻2号)	松田亮三・中原俊隆	203-205	
13	土田宣明	運動抑制の加齢変化-反応タイプの違いに注目して-	単著	2016年3月	科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書			
14	東山篤規	斜面をつくるきめの勾配刺激の複合性:J. J.ギブソンの遺した課題	単著	2016年3月	立命館文学(望月昭教授退職記念論集)(646号)			
15	東山篤規	Anisotropic perception of slant from texture gradient: Size contrast hypothesis	単著	2016年2月	Attention, Perception, & Psychophysics(78/2巻)	山崎枝	647-662	
16	日下菜穂子	生きがい創造プログラムによる介入の高齢女子受刑者の主観的well-being おける影響	単著	2015年8月	心理臨床学研究, Vol.33(3)(33巻3号)	石川眞理子・高橋伸子・桂薫・小橋弘子・下村篤子・増田香織・土田宣明		○

17	藤戸麻美	幼児におけるうそ行動の認知的基盤の検討	単著	2015年6月	発達心理学研究(26巻2号)	矢藤優子	135-143	○
18	都賀美有紀	順序の再構成課題における学習直後と遅延後の語長効果	単著	2015年4月	認知心理学研究(12巻2号)	星野祐司	121-128	○
19	谷晋二	先延ばし行動を持つ大学生にアクセプタンス&コミットメント・セラピーの心理教育を実施した症例報告	単著	2016年2月	行動療法研究(42巻2号)			
20	重富紗希	幼児期における自閉症スペクトラム児のプレイセラピー場面における遊びの分析(1)ーごっこ遊び・ルール遊び(初期)の分析ー	共著	2016年2月	心理教育相談センター年報(立命館大学心理・教育相談センター)(14号)	荒木穂積・小林里帆・荒井庸子・高尾美妃・竹内謙彰	41-55	
21	竹内謙彰	障害を捉える視点とジェンダー	単著	2015年12月	心理科学(36巻2号)		9-18	
22	津止正敏	急増する男性介護者の悩み	単著	2015年12月	『女も男も』労働教育センター(126号)		34-40	
23	小澤亘	外国にルーツを持つ児童生徒の学習権保障とデジタル教科書政策	単著	2015年12月	立命館人間科学研究(33号)		63-74	
24	荒木久理子	学童期後期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発ースタッフの役割の検討ー	共著	2015年8月	立命館人間科学研究(32号)	重富紗希・藤原さつき・中川万幾子・野村朋・荒木美知子・竹内謙彰・荒木穂積	69-84	○
25	鏡原崇史	青年期前期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発ー自主性と協同性をはぐくむ活動の工夫ー	共著	2015年8月	立命館人間科学研究(32号)	山路美波・小林里帆・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰	131-142	○
26	鏡原崇史	青年期前期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発ー自主性と協同性をはぐくむ活動の工夫ー	共著	2015年8月	立命館人間科学研究(32号)	山路美波・小林里帆・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰	131-142	○
27	荒木久理子	学童期後期における自閉症スペクトラム児に対する療育プログラム開発ースタッフの役割の検討ー	共著	2015年8月	立命館人間科学研究(32号)	重富紗希・藤原さつき・中川万幾子・野村朋・荒木美知子・竹内謙彰・荒木穂積	69-84	○
28	竹内謙彰	子どもの遊ぶ権利と原発事故	単著	2015年8月	村本邦子・中村正・荒木穂積(編著)『臨地対人援助学ー東日本大震災と復興の物語ー』晃洋書房		110-113	
29	津止正敏	男性介護者の仕事と介護を巡る実態と論点-介護者モデルの変容と新しい生き方モデル-	単著	2015年8月	生活経済政策(223号)		12-17	
30	櫻谷真理子	個を大切にできるデンマークの保育に学ぶ	単著	2015年8月	立命館大学『産業社会論集』(51巻1号)		67-80	
31	櫻谷真理子	今日の子育て支援の課題	単著	2015年8月	雑誌『教育と医学』(63巻8号)		72-78	
32	山本耕平	若者ソーシャルワークの構築にむけてー対象・視座・局面に関してー	単著	2015年7月	公益財団法人鉄道弘済会『社会福祉研究』(第123号)		2-9	○
33	荒木穂積	発達保障の誕生から50年	単著	2015年6月	立命館産業社会論集(51巻1号)		3-19	○
34	竹内謙彰	高機能自閉症スペクトラム障害を持つ若者の発達課題	単著	2015年6月	立命館産業社会論集(51巻1号)		29-40	○
35	Araki Hozumi	A New Approach for Assessment of Child Development in Vietnam :Developing Tools as Developmental Checklist for Children	共著	2015年6月	Ritsumeikan Social Sciences Review(51巻1号)	Nguyen Thi Hoang Yen, Tran Thi Minh Thanh, Dinh Nguyen Trang Thu, Dao Thi Bich Thuy, Takeuchi Yoshiaki, Tomii Nanami, Matsumoto	55-66	

						Yu		
36	荒木穂積	A new approach for assessment of child development in Vietnam: Developing tools as developmental checklist for children	共著	2015年6月	立命館産業社会論集(51巻1号)	Nguyen Thi Hoang Yen・Tran Thi Minh Thanh・Dinh Nguyen Trang Thu・Dao Thi Bich Thuy・竹内謙彰・富井奈菜実・松元佑	55-56	
37	谷晋二	ACTを用いた発達障がい親子の支援	単著	2015年4月	精神療法(41巻2号)		46-52	
38	山本耕平	若者問題と社会福祉実践の課題—貧困化と孤立に対峙する実践を求めて—、総合社会福祉研究所『総合社会福祉研究』	単著	2015年4月	総合社会福祉研究(45号)		2-11	
39	村本邦子	周辺からの記憶 10:2012年度福島	単著	2016年3月	対人援助学マガジン(6巻4号)		169-178	
40	Hiroyuki Shinoda	Experience and training of a first person shooter (FPS) game can enhance useful field of view, working memory, and reaction time	共著	2016年2月	International Journal of Affective Engineering(15巻3号)	Yasuhiro Seiya		
41	松本克美	時効論・損害論への法心理学的アプローチ — 民事損害賠償請求における被害者支援のために	単著	2015年12月	立命館人間科学研究(33号)		3-13	○
42	廣井亮一	非行臨床の課題	単著	2015年12月	犯罪心理学事典			
43	村本邦子	社会的包摂に向けた修復的支援の研究	単著	2015年12月	インクルーシブ社会研究(8巻)		143-150	
44	村本邦子	周辺からの記憶 9:2012年度岩手(遠野・大船渡)	単著	2015年12月	対人援助学マガジン(6巻3号)		158-168	
45	松本克美	公務員個人の対外的不法行為責任免責論の批判的検討 — 修正的正義論及び法心理的分析をふまえて	単著	2015年10月	立命館法学(361号)		765-794	
46	村本邦子	周辺からの記憶 8:2012年度、宮城	単著	2015年10月	対人援助学マガジン(6巻2号)		151-161	
47	野田正人	児童虐待への支援の基本	単著	2015年10月	児童心理(69巻15号)		106-110	
48	野田正人	児童自立支援施設の今日的課題	単著	2015年10月	日本犯罪社会学会 犯罪社会学研究(40号)		57-67	
49	松本克美	児童期の性的虐待被害に起因するPTSD等の発症に対する損害賠償請求権の時効・除斥期間—釧路PTSD等事件控訴審判決	単著	2015年9月	法律時報(87巻11号)		165-168	
50	廣井亮一	司法臨床—法と臨床の協働による犯罪・非行、家族問題の解決のために	単著	2015年9月	心理学を学ぼう2(心販研)			
51	村本邦子	東日本大震災後のコミュニティ・エンパワメント	共著	2015年9月	コミュニティ心理学研究(19巻1号)	上山真知子・吉浜美恵子・団士郎・久田満	1-36	
52	野田正人	【実践との対話】沖縄の少年非行対応と司法福祉に於ける実践 宇都宮報告「少年鑑別所法における新たな取り組み」との対話	単著	2015年8月	生徒指導研究(日本生活指導学会)(32巻)		41-44	
53	野田正人	【実践との対話】沖縄の少年非行対応と司法福祉における実践	単著	2015年8月	日本生活指導学会 生活指導研究 (32巻41-44号)			
54	中村正	臨床社会学の方法(9)日常生活	単著	2015年6月	対人援助学マガジン(第6巻第1号)、対人援助学会		18-26	
55	中村正	DVのある家族への支援とは	単著	2015年6月	『保健の科学』第57巻第6号、杏林書院		381-387	
56	松本克美	PTSDと損害賠償・時効問題	単著	2015年6月	의생명과학과(13巻)		131-144	

57	村本邦子	周辺からの記憶 7:2012年度、京都、むつ	単著	2015年6月	対人援助学マガジン(6巻1号)		155-165	
58	野田正人	わが国のスクールソーシャルワーク事業の発展史—なぜ2008年にこの事業は開始したのか—	単著	2015年6月	日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌「学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望」		6-9	
59	野田正人	非行と学校ソーシャルワーク	単著	2015年6月	日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌「学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望」		19-22	
60	村本邦子	抵抗とレジリエンス～3.11後を生きるために	単著	2015年5月	女性ライフサイクル研究(24号)		4-11	
61	斎藤真緒	家族介護とジェンダー平等をめぐる今日的課題—男性介護者が問いかけるもの	単著	2015年5月	日本労働研究雑誌(658号)		35-46	
62	Shinoda H	Single stimulus color can modulate vection	共著	2015年4月	Frontiers in Psychology(6巻)	Seya Y, Yamaguchi M	406	○
63	村本邦子	周辺からの記憶6:2012年度のプロジェクトに向けて	単著	2015年4月	対人援助学マガジン(5巻4号)		146-151	
64	松原洋子(監修)	日本における女性障害者への強制的な不妊手術	共著	2016年3月	立命館大学生存学研究センター	利光恵子(著)	3-4	
65	立岩真也	生の現代のために・9—連載118	単著	2015年12月	『現代思想』(43巻16号)		8-19	
66	立岩真也	生の現代のために・8—連載117	単著	2015年11月	『現代思想』(43巻15号)		8-19	
67	立岩真也	生の現代のために・7—連載116	単著	2015年10月	『現代思想』(43巻14号)		8-19	
68	立岩真也	生の現代のために・6—連載115	単著	2015年9月	『現代思想』(43巻13号)		8-19	
69	松原洋子	書評 湯浅俊彦編著『デジタル環境下における出版ビジネスと図書館—ドキュメント』立命館大学文学部湯浅ゼミ	単著	2015年9月	国際公共経済研究(25号)		260-261	
70	立岩真也	生の現代のために・5—連載114	単著	2015年8月	『現代思想』(43巻12号)		8-19	
71	立岩真也	「生の現代のために・4—連載113」	単著	2015年7月	『現代思想』(43巻11号)		8-19	
72	立岩真也	「生の現代のために・3—連載112」	単著	2015年6月	『現代思想』(43巻10号)		8-19	
73	立岩真也	「補足したうえでざっと見取り図を書いてみる」	単著	2015年6月	『賃金と社会保障』(1635巻)		13-19	
74	立岩真也	「尊厳死法制化について」	単著	2015年6月	『賃金と社会保障』(1635巻)			
75	中倉智徳	イノベーション、社会、経済—ガブリエル・タルドと戦間期アメリカにおける「発明の社会学」	単著	2015年6月	年報 科学・技術・社会(24巻)		35-57	○
76	小泉義之	自閉症のリトルネロへ向けて	単著	2015年5月	現代思想(2015巻05号)		86-99	
77	立岩真也	精神医療現代史へ・追記・終—連載111	単著	2015年5月	『現代思想』(43巻9号)		8-19	
78	立岩真也	そもそもなぜテストをするの?—学カテストから能力と評価の問題を考える(鼎談)	共著	2015年5月	『教育と文化』(79巻)	池田賢市・桜井智恵子	8-27	
79	立岩真也	精神医療現代史へ・追記13—連載110	単著	2015年4月	『現代思想』(43巻8号)		8-19	
80	石倉康次	福祉労働の質を維持できる人件費算定根拠の確立を	単著	2015年12月	福祉のひろば		34-38	
81	石倉康次	地域医療連携推進法人と社会福祉法人制度の改正の問題	単著	2015年12月	住民と自治		36-39	
82	石倉康次	新オレンジプラン 活かせる点はどこにある	単著	2015年6月	福祉のひろば			

83	石倉康次	社会福祉法人制度改革の動向	単著	2015年4月	『障害者問題研究』(42巻4号)		210-213	
84	西川大輔	高大連携プロジェクトと大学院生・高校生の変容—附属高校選択科目におけるピア・サポートプログラムの活用を通して—	共著	2016年3月	ピア・サポート研究(12巻)	山崎瑞貴・春日井敏之・増田梨花	75-86	
85	増田梨花	中国における絵本を活用したピア・サポートトレーニングの実践—国際表現性心理学会主催のワークショップを通して—	単著	2016年1月	立命館大学心理・教育相談センター年報(14号)		91-100	
86	西川大輔	こうだい連携プロジェクトと大学院生・高校生の変容—附属高校選択科目におけるピア・サポートプログラムの活用を通して—	共著	2015年	ピア・サポート研究(12号)	山崎瑞貴・春日井敏之・増田梨花	75-86	
87	Mima T,	Gamma Oscillations and Their Cross-frequency Coupling in the Primate Hippocampus during Sleep.	共著	2015年7月	Sleep(38巻7号)	Takeuchi S, Murai R, Shimazu H, Isomura Y, Tsujimoto T	1085-1091	
88	Mima T	Parkinson's disease patients showed delayed awareness of motor intention.	共著	2015年6月	Neuroscience research(95巻)	Tabu H, Aso T, Matsuhashi M, Ueki Y, Takahashi R, Fukuyama H, Shibasaki H,	74-77	
89	Mima T	Action observation with kinesthetic illusion can produce human motor plasticity.	共著	2015年6月	The European journal of neuroscience(41巻12号)	Nojima I, Koganemaru S, Kawamata T, Fukuyama H,	1614-1623	
90	美馬達哉	正常・病理・エンハンスメント(特集 スポーツ・身体と科学技術のサイエンス・カフェ)	単著	2015年	スポーツ社会学研究(23巻1号)		7-18	
91	Akira Inoue	"Inequalities, Responsibility, and Rational Capacities: A Defence of Responsibility-Sensitive Egalitarianism"	単著	2016年2月	Australian Journal of Political Science(Online First 巻)		1-16	
92	Akira Inoue	"Can Luck Egalitarianism Serves as a Basis for Distributive Justice? A Critique of Kok-Chor Tan's Institutional Luck Egalitarianism"	単著	2016年	Law and Philosophy		forthcoming	
93	Akira Inoue,	"Does Sunstein and Thaler's Theory Have a Broad Scope?"	共著	2015年7月	WINPEC Working Paper Series(No.E1508号)	Kazumi Shimizu, Yoshiaki Wakamatsu, Daisuke Udagawa	1-22.	
94	崎山治男	書評 立岩真也著『自閉症連続体の時代』	単著	2015年6月	『社会学評論』日本社会学会(66巻1号)		150-152	
95	丸山里美	第5回若手奨励賞 受賞の言葉	単著	2015年	日本都市社会学会年報(33巻)			
96	丸山里美	女性の貧困とメンタルヘルス	単著	2015年	こころの健康シリーズIV		格差社会とメンタルヘルス(11巻)	
97	増田梨花	高大連携プロジェクトと大学院生・高校生の変容—附属高校選択科目におけるピア・サポートプログラムの活用を通して	共著	2016年2月	日本ピア・サポート学会編『ピア・サポート研究』(12号)	西川大輔・山崎瑞貴・春日井敏之・	75-85	
98	春日井敏之	自立的活動と子ども・教師の成長—日常生活における自己決定の積み重ね	単著	2015年9月	日本生活教育連盟編『生活教育』(802号)		53-61	

99	服部 雅史	他者の行動予測における検索容易性の間接的影響：特性についての期待の影響からの検討	共著	2015年10月	実験社会心理学研究(55巻1号)	織田涼・八木保樹	28-39	
100	Kitaoka, A.	Second-order footsteps illusions	共著	2015年12月	i-Perception(6巻6号)	Anstis, S	1-4	
101	Kitaoka, A.	Slope illusion (Magnetic Hills) in Radan.	単著	2015年7月	ART AND ITS ROLE IN THE HISTORY: BETWEEN DURABILITY AND TRANSIENT -ISMS: Dedicated to the Memory of prof. Miodrag Jovanović, Ph.D (1932-2013)		751-760	
102	北岡 明佳	錯視のニューロサイエンス	単著	2015年6月	Annals of Neuroscience and Medical Engineering Meeting in Yamagata (山形ニューロサイエンス・医工学研究会誌)(15号)		1-6	
103	山本 博樹	高校「倫理」教科書からの思想形成過程の理解に対する支援可能性一段落分け方略を介した支援の観点ー	共著	2016年	立命館文学(64号)	織田涼・小島淳一	76-89.	
104	山本 博樹	カタカナ表記ガイドラインに対する学識者からの推薦のことば	単著	2015年9月	テクニカルコミュニケーター協会 外来語(カタカナ)表記ガイドライン 第3版		43-43	
105	吉沅洪	日中比較からみるこころのケアにおける共感疲労に関する一考察	単著	2016年1月	立命館大学心理・教育相談センター年報(14巻)		19-30	
106	Manabu Fujimoto	Team Roles and Hierarchic System in Group Discussion	単著	2015年9月	Group Decision and Negotiation		1-24	

3. 研究発表等						
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名	
1	稲葉光行	えん罪救済センターの開設に向けて	2016年3月	シンポジウム企画「死刑えん罪とDNA鑑定」	TKC 東京本社(東京都)	
2	稲葉光行	日本におけるイノセンス・プロジェクト～えん罪救済センターの役割と展望	2016年3月	シンポジウム企画「えん罪救済の新たな幕開け」	立命館大学(大阪府)	
3	若林宏輔	『法と心理学』の学融のススメ	2016年3月	鹿児島大学法文学部シンポジウム「法学と心理学の教育における架橋」	鹿児島大学(鹿児島県)	
4	稲葉光行	日本版イノセンス・プロジェクトの立ち上げに向けて	2015年11月	日本版イノセンス・プロジェクトの可能性を考える」東京集会	青山学院大学(東京都)	
5	由井秀樹	体外受精の臨床応用と日本受精着床学会の設立	2015年11月	日本科学史学会第19回西日本研究大会	徳島大学(徳島県)	
6	由井秀樹(オーガナイザー兼報告者)	公募ワークショップ「生殖と医療をめぐる現代史研究と生命倫理」	2015年11月	第27回日本生命倫理学会年次大会	千葉大学(千葉県)	利光恵子・山本由美子・吉田一史美
7	中田 友貴・サトウ タツヤ	日本独自の取調べ録画映像提示方式は自白の任意性に影響を与えるか？ー 画面との比較からー	2015年10月	法と心理学会第16回大会	獨協大学(埼玉県)	
8	稲葉光行	日本版イノセンス・プロジェクト設立の背景と展望	2015年10月	法と心理学会第16回大会	獨協大学(埼玉県)	

9	若林宏輔	新時代の心理学的供述分析—— 取調べの可視化以降の 可能性について	2015年 10月	法と心理学会第16 回大会	獨協大学(埼玉 県)	
10	Saki Yamada, Tatusya Sato	3D Visualization of the "Free Conviction": The Decisions of the Nabari Case.	2015年10 月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	
11	Tatusya Sato	Are probationers/parolees really different from non-probationers/non-parolees after reintegration?: An analysis of employer interviews by applying the Trajectory Equifinality Model	2015年10 月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	Ayako Saito,
12	Tatusya Sato	Consideration of discussion pattern in Japanese citizen judge system; integration of qualitative and quantitative analysis	2015年10 月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	Yuki Kosaka,
13	Tatusya Sato	How should be video-record of police investigations?: Focus On Camera perspective and presentation style	2015年10 月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	Yuki Nakata,
14	Tatusya Sato	Ethnography of Temporally Housing in Fukushima Prefecture: Aim to Construct Resilient Society.	2015年10 月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	Ayae Kido, Shoka Amano and
15	Mitsuyuki Inaba	A consideration of East-asian way of exonerating wrongfully convicted individuals	2015年 10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	
16	Mitsuyuki Inaba,	Construction of Visual Database for Judicial Information Using Interactive- CG	2015年 10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	Shinya Saito, Akihiro Uemura,
17	安田裕子	質的研究方法を基礎とした思考技術ブ ログラム開発の試み「時間的展望(過 去・現在・未来)能力に着目したキャリア 発達支援ツール」	2015年 10月	日本質的心理学会 第12回大会	宮城教育大学 (宮城県)	豊田香・番田清美・岡部大祐・
18	安田裕子	対話的自己理論の展開と応用—共生社 会に生きる私とあなたへの接近	2015年 10月	日本質的心理学会 第12回大会	宮城教育大学 (宮城県)	森岡正芳・サトウタツヤ・黒羽カテリー ナ・山田嘉徳・小澤義雄・滑田明暢
19	Ryozo Matsuda	Linking and persuading roles of policy ideas: Development of sub-national governance of health and long-term care in Japan	2015年9 月	2015 Annual ESPAnet Conference: THE LOST AND THE NEW WORLDS OF WELFARE (3-5 September 2015)	デンマーク	
20	Sato, T. ..	Potentials of trajectory equifinality approach in Developmental Psychology.	2015年9 月	7th European Conference on Developmental Psychology	Braga,Portugal	Mattos, de E. , Salgado, J. , Kido, A. , Tian, Y. , & Yasuda, Y
21	Kanzaki Mami	Understanding the development of students who had experienced school nonattendance.	2015年9 月	7th European Conference on Developmental Psychology	Braga,Portugal	Sato Tatsuya
22	Sato, T.	Cultural Transition of Chinese Students in Japan: Understanding the Process of Value Transformation by Using Trajectory Equifinality Approach.	2015年9 月	7th European Conference on Developmental Psychology	Braga,Portugal	Tian, Y.,
23	Tatsuya Sato	The learning process of university students both in lectures and in extracurricular activities : From the interview with senior students	2015年9 月	7th European Conference on Developmental Psychology	Braga,Portugal	Daichi Shimizu
24	Sato Tatsuya	Career Identity Work – Visualization of the process of students' career development in school-to-work transition –	2015年9 月	IAEVG International Conference Tsukuba	茨城県	Kiyomi Banda, Namiko Takahashi, and Yuko Yasuda
25	サトウタツ ヤ	社会問題解決型心理学の可能性;学際 から学融へ	2015年9 月	日本心理学会第79 回大会	名古屋国際会議 場(愛知県)	

26	サトウタツヤ	心理調査士の現状と展望;学際から学融へ	2015年9月	日本心理学会第79回大会	名古屋国際会議場(愛知県)	
27	安田裕子	夫婦・家族関係における協同	2015年9月	日本心理学会第79回大会	名古屋国際会議場(愛知県)	増井秀樹・水澤慶緒里・黒澤泰・滑田明暢・小崎恭弘・
28	安田裕子	更生の道を時間と社会に拓くということ—加害性と被害性に留意して	2015年9月	日本心理学会第79回大会	名古屋国際会議場(愛知県)	松嶋秀明・久保樹里・齋藤絢子・大倉得史・森直久
29	若林宏輔	応用心理学史としての法心理学史の再構築	2015年9月	日本心理学会第79回大会(公募シンポジウムの企画・司会)	名古屋国際会議場(愛知県)	
30	稲葉光行	混合研究法としてのグラウンデッドなテキストマイニング・アプローチ	2015年9月	国際混合研究法学会アジア地域会議	立命館大学(大阪府)	抱井尚子
31	安田裕子	複雑経路等至性(TEM)アプローチとテキストマイニングによる混合研究法/協働により何が捉えられるか?(ワークショップ講師)	2015年9月	国際混合研究法学会アジア地域会議	立命館大学(大阪府)	廣瀬眞理子
32	小坂祐貴	裁判員裁判の評議体内で裁判員同士のコミュニケーションが生み出すダイナミクスの検討.	2015年9月	国際混合研究法学会アジア地域会議	立命館大学(大阪府)	福田茉莉
33	Yasuda, Y.	Potentials of trajectory equifinality approach in Developmental Psychology	2015年9月	17th European Conference on Developmental Psychology	University of Minho (Portugal.)	Sato, T., Mattos, de E., Salgado, J., Kido, A., Tian, Y.,
34	Yasuda, Y.	Career Identity Work: Visualization of the process of students'career development in school-to-work transition	2015年9月	IAEVG International Conference	つくば国際会議場(茨城県)	Banda, K., Takahashi, N., Sato, T.
35	Kanzaki M	Understanding the development of students who had experienced school nonattendance.	2015年9月	17th European Conference on Developmental Psychology.	University of Minho (Portugal.)	Sato T 福田茉莉
36	Shimizu. D.,	The Learning genetic process of undergraduate student in campus life: From the interview with senior students.	2015年9月	17th European Conference on Developmental Psychology.	University of Minho (Portugal.)	Sato, T.福田茉莉
37	Nakata, Y.	The effect of presentation of video-taped investigation on jury decision making	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015	Nuremberg,(Germany)	Sato, T 福田茉莉
38	Nakata, Y.,	Proposal of discussion pattern in Japanese lay judge system by qualitative analysis method.	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015	Nuremberg,(Germany)	Sato, T 福田茉莉
39	Nakata, Y.,	Efforts to promote and maintain employment of probationers/parolees by cooperative employers.	2015年8月	European Association of Psychology and Law + WORLD Conference 2015	Nuremberg,(Germany)	Sato, T 福田茉莉
40	稲葉光行	日本版イノセンス・プロジェクトの設立とその展望	2015年8月	台湾冤獄平反協會フォーラム	台湾	
41	Wakabayashi, K.	What is the Best Deliberation Structure for Citizen Participation in Criminal Justice ? Approach from the View of Social Psychology	2015年8月	The 4th East Asian Law and Society Conference,	早稲田大学(東京都)	
42	Wakabayashi, K.	Brief History of Japanese Law and Psychology for the Criminal Investigation	2015年8月	International Workshop on Forensic Evidence and Social Science,		

43	神崎真実	高校教育における人格形成—人格に対する心理学、現場の方針、生徒の語りとの間の隔たりから—.	2015年8月	日本パーソナリティ心理学会24回大会	北海道教育大学札幌校(北海道)	福田茉莉
44	春日秀朗	期待達成度認知が大学生の自我同一性の感覚に与える影響の検討.	2015年8月	日本パーソナリティ心理学会24回大会	北海道教育大学札幌校(北海道)	福田茉莉
45	Rumi Tokunaga,	The perception of shadow and the apparent brightness in the space	2015年8月	The 38th European Conference on Visual Perception	Liverpool University (UK)	Hirota Urabe, Hiroyuki Shinoda
46	Ryozo Matsuda	Re-knotting health care governance under financial pressure: a case study on evolving decentralized mechanisms of Japanese health system	2015年7月	The 2nd International Conference on Public Policy, (July 1 to July 4, 2015) on July 3 2015	Università Cattolica del Sacro Cuore (イタリア)	
47	Rumi Tokunaga,	Categorical color clusters of Japanese color lexicon	2015年7月	International Color Vision Society (ICVS)	東北大学桜ホール(宮城県)	Ichiro Kuriki, Yumiko Muto, Kazuho Fukuda, Delwin Lindsey, Angela Brown, Keiji Uchikawa, and Satoshi Shioiri
48	Mitsuyuki INABA,	Constructing Collaborative Serious Games for Cross-Cultural Learning in a 3D Metaverse	2015年5月	Replaying Japan 2015	立命館大学(京都府)	Michiru TAMAI, Kenji KITAMURA, Ruck THAWONMAS, Koichi HOSOI, Akinori NAKAMURA, and Masayuki UEMURA
49	Yato, Y.,	Japanese Children's Drawing Processes and Performance on Bender Gestalt Test: Analysis Using a Digital Pen	2015年5月	Association for Psychological Science the 27th Annual Convention	New York(USA)	Hirose, S., Wallon, P., Mesmin, C., & Jobert, M.
50	由井秀樹	戦前・戦中期日本の都市部における出産の施設化	2015年5月	第41回日本保健医療社会学会大会	首都大学東京(東京都)	
51	由井秀樹	日本における体外受精研究黎明期の分野横断型共同研究	2015年5月	日本科学史学会第62回年会・総会	大阪市立大学(大阪府)	
52	木戸彩恵	"Kawaii" in modern Japanese society.	2015年5月	国際学会「CHI2015」	COEX Convention & Exhibition Center(KOREA)	
53	東山篤規	奥行き方向に伸びる交叉線:視空間のユーグリッド性の検討	2015年11月	関西心理学会第127回大会	関西学院大学(兵庫県)	
54	東山篤規	Determination of the Somatosensory Horizontal Plane.	2015年11月	Psychonomic Society's 56th Annual Meeting	Sheraton Boston (USA)	
55	矢藤優子	d2-R テストを用いた視覚的注意の測定と発達的变化:日独比較による検討	2015年11月	2015年度立命館大学人間科学研究所年次総会	立命館大学(京都府)	廣瀬翔平・土田宣明・Philippe Wallon・Claude Mesmin・Matthieu Jobert
56	東山篤規	Framing can enhance the perceived depth of a picture.	2015年8月	The 38th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	University of Liverpool.(イギリス)	下野孝一・相田紗織
57	Yato, Y.,	The d2-R test of attention; the comparison Between French and Japanese elderly people	2015年7月	The 14th European Congress of Psychology	Milan(Italy)	Hirose, S., Tsuchida, N., Wallon, P., Mesmin, C. & Jobert, M.
58	Yato, Y.,	Japanese Children's Drawing Processes and Performance on Bender Gestalt Test: Analysis Using a Digital Pen	2015年5月	Association for Psychological Science the 27th Annual Convention	New York(USA)	Hirose, S., Wallon, P., Mesmin, C., & Jobert, M.
59	山本耕平	日本におけるひきこもりの実態と支援課題	2015年12月	佛敎大学総合研究所共同研究「脱貧	佛敎大学(京都府)	

				困」戦略の構築—共生社会のグランドデザイン」プロジェクト シンポジウム「東アジアにおける貧困と脱貧困政策の課題」		
60	Shinji TANI	Teaching Children with Autism to Understand "IF I Were You" Sentences	2015年9月	Eighth International Conference of Association for Behavior Analysis International	京都府	Yayoi DAIO
61	山本耕平	386世代が韓国若者支援実践に与えた影響に関する検討 PDF —「客体から主体へ」を築き上げた力—	2015年9月	日本社会福祉学会第63回秋季大会	久留米大学(福岡県)	
62	竹内謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発(4)—小学校低学年~小学校高学年:ニーズに合わせた個と集団の遊びの工夫—	2015年8月	日本自閉症スペクトラム学会第14回大会	札幌学院大学(北海道)	村上歩未・遠藤祐希・松本佑・富井奈菜実・荒木穂積・
63	竹内謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発(5)—小学校中学年~中学生:相互関係を高める活動—	2015年8月	日本自閉症スペクトラム学会第14回研究大会	札幌学院大学(北海道)	三野範子・横田聖子・松本佑・野村朋・荒木美知子・荒木穂積・
64	竹内謙彰	自閉症スペクトラム児の多様性と主体性を尊重した療育プログラム開発(6)—中学生~高校生期:映画制作から見出した新たな可能性—	2015年8月	日本自閉症スペクトラム学会第14回研究大会	札幌学院大学(北海道)	西川大輔・河合誠也・小林里帆・上田恵理子・松本佑・荒木穂積・
65	小澤 亘	「日本語」というバリア:ニューカマーの子どもたちと学習権の保障	2015年8月	東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告(2015年第3号)pp.113-125		
66	Shinji TANI	ACT Training for the Taiwanese Parents of Children with Disabilities	2015年7月	ACBS Annual World Conference 13	Berlin (Germany)	Yuanhong Ji, Nie-Hwa LAI
67	Shinji TANI	Psychological Flexibility, ACT and Parent Training: Science and Experience	2015年7月	ACBS Annual World Conference 13	Berlin (Germany)	Giovanni Miselli,
68	山本耕平	子ども・若者のいのち、暮らしを守り育てる	2015年5月	佐世保市子どものいのちと心を守る市民ネットワーク第一回子どものいのちと心を守る講演会i	佐世保(長崎県)	
69	櫻谷真理子	デンマークの保育理念・実践課題の検討	2015年5月	日本保育学会第68回大会	椋山女学園大学(愛知県)	
70	篠田博之	透過型ディスプレイの視認性評価	2016年3月	日本色彩学会関西支部大会	大阪市立大学(大阪府)	奥亘平・瀬谷安弘
71	篠田博之	質感と色の見え	2016年3月	第4回次世代光学素子研究会	大阪科学技術センター(大阪府)	
72	野田正人	児童虐待とネットワークの役割	2016年3月	長浜市要保護児童対策地域協議会代表者会議	滋賀県	
73	野田正人	児童虐待防止と関係機関連携	2016年2月	鳥取県児童虐待防止関係機関連絡会	島根県	
74	野田正人	要保護児童対策地域協議会の効果的運営について	2016年2月	三重県伊賀市要保護児童並びにDV対策地域協議会	三重県	
75	野田正人	子ども理解を深めるアセスメントと生徒指導	2016年2月	大阪府生徒指導推進協議会	大阪府	
76	野田正人	学校の現状とSSWの今後を考える	2016年2月	高槻市スクールソーシャルワーカー連絡協議会	大阪府	
77	野田正人	学校教育導入後の課題と展望	2016年2月	近畿圏児童自立支援施設協議会研修		

				会		
78	野田正人	子どもの貧困と学校の関わり	2016年2月	京都市教育委員会 人権研修	京都府	
79	野田正人	スクールソーシャルワーカー・スクール カウンセラー連携術	2016年2月	総合教育技術2016 年3月号22-27頁		
80	野田正人	要保護児童対策地域協議会の活用について	2016年2月	湖南省要保護児童 対策地域協議会	滋賀県	
81	篠田博之	視覚研究とその応用	2016年1月	立命館大学認知科 学研究センター第 2回研究会	立命館大学(大 阪府)	
82	野田正人	保護者によりそう保育園であるために	2016年1月	福知山市保育協議 会人権研修会	京都府	
83	野田正人	要保護児童の家庭支援及び保護者対 応について	2016年1月	大津市園長・代表 保育士研修会	滋賀県	
84	松本克美	児童期の性的虐待被害と時の壁	2015年 12月	日本ジェンダー法 学会第13回学術 大会	日本大学法学部 (東京都)	
85	松本克美	民法改正案における時効法改革	2015年 11月	地籍問題研究会第 14回定例研究会	日司連ホール (東京都)	
86	村本邦子	困難を乗り越える力～「未来のための 思い出:ココロ重なるプロジェクト」で集 まった声の分析から	2015年 11月	対人援助学会第7 回年次大会	立命館大学(京 都府)	磯井知子・岩澤由真・川福理沙・地下 昌里・前阪千賀子・清武愛流・森希理 恵・奥野景子・団士郎・中村正
87	村本邦子	家族漫画展を使ったコミュニティ支援の 試み ～「東日本・家族応援プロジェクト」の5年から	2015年 11月	第七回アジア災害 後心理援助国際会 議		団士郎
88	村本邦子	福島:被爆地に暮らす、被爆地を出て暮 らす	2015年 11月	第七回アジア災害 後心理援助国際会 議		松本直美
89	野田正人	性暴力加害行為のある知的障がい者へ のアプローチについて	2015年 11月	滋賀 ASB サポート ネット 研修会	滋賀県	山崎康一郎
90	野田正人	児童虐待の現状と家庭・学校の役割	2015年 11月	平成27年度京都 府相楽地方PTA 研究大会	京都府	
91	野田正人	地域に貢献する保育園づくり	2015年 11月	全国保育園理事 長・所長研修会		
92	松本克美	児童期の性的被害とその回復をめぐる 法心理2	2015年 10月	法と心理学第16 回大会	獨協大学(埼玉 県)	
93	松本克美	児童期の性的虐待被害とその回復をめ ぐる法心理2—ドイツ・韓国調査の報告	2015年 10月	法と心理学第16 回大会	獨協大学(埼玉 県)	金成恩・安田裕子
94	松本克美	PTSD and Negative Prescription:damages for sexual abuse in childhood	2015年 10月	The 9th East Asian Law and Psychology Conference	立命館大学(大 阪府)	
95	篠田博之	照明光への色順応を考慮したディスプレ イカラーマネジメント	2015年 10月	Optics & Photonics Japan 2015	筑波大学東京キ ャンパス(東京 都)	栗田直樹・瀬谷安弘
96	篠田博之	ベクションにおける色彩と奥行き手がかりの影 響	2015年 10月	Optics & Photonics Japan 2015	筑波大学東京キ ャンパス(東京 都)	山口慧・瀬谷安弘・
97	篠田博之	外光によるディスプレイの見えの映り込 み評価	2015年 10月	Optics & Photonics Japan 2015	筑波大学東京キ ャンパス(東京 都)	藤本悠介・瀬谷安弘
98	篠田博之	ベクションと重心動揺の関係	2015年 10月	Optics & Photonics Japan 2015	筑波大学東京キ ャンパス(東京 都)	山地亮・瀬谷安弘
99	篠田博之	風景窓から入射する屋光に影響される 空間の明るさ感評価	2015年 10月	Optics & Photonics Japan 2015	筑波大学東京キ ャンパス(東京 都)	山田翔吾・瀬谷安弘
100	村本邦子	「団士郎家族漫画展」が見る人の心に喚 起するもの～「未来のための思い出:コ コロかさなるプロジェクト」で集まった声 の分析を通して	2015年 10月	日本質的心理学会 第12回大会	宮城教育大学 (宮城県)	齋藤清二・清武愛流・前阪千賀子
101	Kuniko Muramoto,	Weaving the Tapestry of Peace and Nonviolence: Peacebuilding and Efforts	2015年 10月	The 11th International	香港	Kyoko Okumoto, Masae Yuasa, and Aya Kasai

		for Reconciliation on Northeast Asia and Beyond		Expressive Arts Therapy Association Conference		
102	野田正人	社会的養護の課題と方向性 青少年の現状と自立へ向けた支援の在り方を問う	2015年10月	全国自立援助ホーム協議会第22回滋賀大会基調講演	ホテル ポストンプラザ(滋賀県)	
103	野田正人	関係専門機関との有効な連携について	2015年10月	全国自立援助ホーム協議会第22回滋賀大会	ホテル ポストンプラザ(滋賀県)	西岡潔子・菅野道英・星俊彦・
104	松本克美	高齢者の消費者被害 — なぜ起こる、どう防ぐ	2015年9月	京都高齢者大学	京都高齢者大学(京都府)	
105	松本克美	特定個人の人格権保護を理由とした「図書館の自由」の制約原理と判断基準	2015年9月	立命館大学図書館サービス課研修	立命館大学(京都府)	
106	斎藤真緒	Male carers in Japan: Difficulties and the need for gender sensitive support programs	2015年9月	6th International Carers Conference	スウェーデン	
107	小澤 亘	「日本語」というバリア:ニューカマーの子どもたちと学習権の保障	2015年8月	東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター活動報告(2015年第3号)pp.113-125		
108	Hiroyuki Shinoda	Relationship between vection and body sway	2015年8月	ECVP2015 (UK)	University of Liverpool.(イギリス)	Ryo Yamaji, Yasuhiro Seya and
109	篠田博之	色彩の生理・心理学(1)	2015年8月	色彩講座基礎編2015	立命館大学(京都府)	
110	野田正人	今日の学校課題と児童自立支援施設	2015年8月	児童自立支援施設に併設された学校教育研究会2015		
111	野田正人	子どもの貧困対策と学校に於ける取り組み	2015年8月	京都府八幡市校長会	京都府	
112	野田正人	いじめを生まない学校・学級をつくるために	2015年8月	福知山市生徒指導研究大会	京都府	
113	野田正人	子どもの自尊感情を育むために	2015年8月	東近江市立五個荘中学校校区教育研究会講演	滋賀県	
114	野田正人	保護者の低所得と子どもへの影響	2015年8月	伊根町学力育成会小中学校教育実践力向上充実研修会	伊根中学校(京都府)	
115	野田正人	子どもの虐待 思春期への影響	2015年8月	第34回日本思春期学会総会・学術集会 シンポジウムⅢ	ピアザ淡海(滋賀県)	
116	Hiroyuki Shinoda	Degradation of display image due to glare of ambient light evaluated by using a visibility matching technique and analysis of their spatial frequency characteristics	2015年7月	APCV2015	Nanyan Technological University (Singapore)	Yusuke Fujimoto, and Yasuhiro Seya
117	Hiroyuki Shinoda	Scenic views through a window affect the perception of space brightness of a room	2015年7月	APCV2015	Nanyan Technological University (Singapore)	Shogo Yamada, Yasuhiro Seya
118	Hiroyuki Shinoda	Images on a transparent display with a uniform gray background evaluated by visibility matching and degradation category rating	2015年7月	APCV2015	Nanyan Technological University (Singapore)	Kohei Oku, Yasuhiro Seya
119	Hiroyuki Shinoda	Relationships between scene perception and visual search performance	2015年7月	APCV2015	Nanyan Technological University (Singapore)	Yasuhiro Seya
120	Hiroyuki Shinoda	Relationship between vection and visually evoked postural responses	2015年7月	APCV2015	Nanyan Technological University (Singapore)	Ryo Yamaji, Yasuhiro Seya

121	松本克美	民法改正における時効法改革は何を変えるのか ― その光と影	2015年7月	民主主義科学者協会関西支部研究会		
122	野田正人	児童福祉法の現状・施策の動向について	2015年7月	京都市町村児童福祉専門職員育成研修	京都府	
123	野田正人	虐待と思春期	2015年7月	社会的不利におかれた子ども・若者支援に関する研修会	滋賀医科大学(滋賀県)	
124	野田正人	子ども虐待への対応	2015年7月	児童虐待相談等関係職員研修	滋賀県	
125	野田正人	虐待を受けた子ども達への支援の在り方	2015年7月	平成26年度地域支援センターやわた第一回スキルアップ研修	京都府八幡支援学校(京都府)	
126	野田正人	ソーシャルワークの視点をもった生徒指導について	2015年7月	東大阪市教職員研修会	東大阪市	
127	野田正人	スクールソーシャルワークの活動について	2015年7月	京都市立金閣小学校夏期研修会	金閣小学校(京都府)	
128	野田正人	児童生徒のいじめや校内暴力への対応を考える	2015年7月	日本学校ソーシャルワーク学会第10回福岡大会 課題分科会	福岡国際会議場(福岡市)	
129	松本克美	児童期の性的虐待被害と「時の壁」ドイツにおける相次ぐ法改正と日本への示唆	2015年6月	日本ドイツ学会第31回大会	東京大学(東京都)	
130	村本邦子	東日本大震災後の現地支援機関との協働関係構築プロセス ～「東日本・家族応援プロジェクト」の4年を振り返って～	2015年6月	日本コミュニティ心理学会第18回大会、	法政大学(東京都)	
131	Hiroyuki Shinoda	Space Brightness Affected by a Scenic View through a Window	2015年5月	AIC2015 Mid-term Meeting	Ochanomizu sola city Conference Center (Tokyo)	Shogo Yamada, Ryousuke Tanaka, Yasuhiro Seya
132	篠田博之	人の視覚特性と光・色彩工学への応用	2015年5月	電気設備学会 関西支部総会 記念講演	中央電気倶楽部(大阪府)	
133	松本克美	PTSDと損害賠償・時効問題	2015年5月	圓光大学法学専門大学院シンポジウム		
134	松本克美	欠陥住宅の民事責任と期間制限 ― 民法改正案もふまえて	2015年4月	欠陥住宅京都ネット第18回大会	京都府	
135	渡辺克典	障害者／マイノリティの差別現象への法的介入をめぐる基礎研究	2015年11月	人間科学研究所年次総会(「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」プロジェクト公開研究会)	立命館大学(京都府)	
136	松原洋子	図書資料のテキストデータ提供の課題 ―立命館大学図書館の実践から	2015年6月	全国高等教育障害学生支援協議会第1回大会、東京大学先端科学技術研究センター(東京)	東京大学(東京都)	植村要
137	石倉康次	日本における社会福祉制度・政策の変遷	2015年7月	日中社会福祉国際交流会蒙古師範大学と総合社会福祉研究所との交流会		
138	増田梨花	浦和学院高校 PeerっCo.ルームの取り組み～台湾の姉妹校との比較～	2015年11月	一般社団法人 日本学校保健学会第62回学術大会	岡山コンベンションセンター(岡山県)	小袋伸江
139	増田梨花	アンケートを活用した、いじめの予知・予防に関する取り組み	2015年11月	一般社団法人 日本学校保健学会第62回学術大会	岡山コンベンションセンター(岡山県)	小袋伸枝・松田東子・松下健・篠村健人・市川秀夫・上村春彦・五十嵐恵子・児玉頼昭・竹田美保・清水雄介・土橋知花・山本紘子・小沢友紀雄

140	増田梨花・	ピア・サポートトレーニングによる共感性の経時的変化―浦和学院高等学校における実践を通して―	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	松下健・松田東子・篠村健人・小袋伸枝・五十嵐恵子・上村春彦・児玉頼昭・竹田美保・清水雄介・土橋知花・山本紘子・市川秀夫・小沢友紀雄
141	増田梨花	高校生の健康診断時血圧の 3 年間の断面研究および前向き研究	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	上村春彦・児玉頼昭・竹田美保・五十嵐恵子・土橋知花・山本紘子・清水雄介・松下健・松田東子・篠村健人・小袋伸枝・市川秀夫・小沢友紀雄
142	増田梨花	高校生の三年間の学校検診時に指摘された房室ブロックの経過に関する研究	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	土橋知花・山本紘子・清水雄介・五十嵐恵子・上村春彦・小袋伸枝・児玉頼昭・竹田美保・松下健・松田東子・篠村健人・市川秀夫・笠巻祐二・松原恒二・小沢友紀雄
143	増田梨花	周囲に人が居ない場合を想定した問題解決型実践的救急救命シミュレーション研修の成果	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	五十嵐恵子・清水雄介・山本紘子・土橋知花・上村春彦・小袋伸枝・児玉頼昭・竹田美保・松下健・松田東子・篠村健人・市川秀夫・笠巻祐二・小沢友紀雄
144	増田梨花	女子高生の BMI の変化と食生活・体調との関連を基にした指導	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	竹田美保・小袋伸枝・児玉頼昭・武藤志真子・藤倉純子・積田唯・上村春彦・五十嵐恵子・市川秀夫・清水雄介・土橋知花・山本紘子・松田東子・松下健・篠村健人・小沢友紀雄
145	増田梨花	高校生の学校検診 QT 延長例の携帯型伝送心電計による簡易 QT 変動モニターの有用性	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	清水雄介・土橋知花・山本紘子・五十嵐恵子・上村春彦・小袋伸枝・児玉頼昭・竹田美保・松下健・松田東子・篠村健人・市川秀夫・笠巻祐二・松原恒二・小沢友紀雄
146	増田梨花	高校生の検診で指摘された心雑音は異常か?―携帯型心エコーを用いての検討―	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	山本紘子・土橋知花・清水雄介・五十嵐恵子・上村春彦・小袋伸枝・児玉頼昭・竹田美保・松下健・松田東子・篠村健人・市川秀夫・笠巻祐二・小沢友紀雄
147	増田梨花	高校保健室におけるスマートフォンを利用した携帯型心電計の活用	2015 年 11 月	一般社団法人 日本学校保健学会 第 62 回学術大会	岡山コンベンションセンター (岡山県)	五十嵐恵子・清水雄介・山本紘子・土橋知花・上村春彦・小袋伸枝・児玉頼昭・竹田美保・松下健・松田東子・篠村健人・市川秀夫・笠巻祐二・松原恒二
148	増田梨花	ピア・サポート・プログラムを活かした高大連携の取り組み ―院生の変容プロセスに焦点をあてて―	2015 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 14 回総会・研究大会	国立女性教育会館 (埼玉県)	河美善・内田一樹・関塚倫子・畑中樹奈・藤田瑞紀・西川大輔・梶井亮・木戸口峻・原田有規・山崎瑞貴・枝廣和憲・春日井敏之
149	増田梨花	中国における「ピア・サポートトレーニング」の実践及び展望 ―大学生への絵本を活用したプログラムの試みから―	2015 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 14 回総会・研究大会	国立女性教育会館 (埼玉県)	鄭平陽
150	増田梨花	ピア・サポートプログラムを活かした高大連携の取り組みが高校生の心的成長に及ぼす影響―ナナメの関係に着目して―	2015 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 14 回総会・研究大会	国立女性教育会館 (埼玉県)	枝廣和憲・内田一樹・関塚倫子・畑中樹奈・河美善・藤田瑞紀・梶井亮・木戸口峻・西川大輔・原田有規・山崎瑞貴・春日井敏之
151	増田梨花	大学院生を対象とした合宿型ピア・サポート・トレーナー養成のための研修講座の効果検証―高大連携の取り組みにおけるトレーニング効果の考察を通して―	2015 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 14 回総会・研究大会	国立女性教育会館 (埼玉県)	西川大輔・梶井亮・木戸口峻・原田有規・山崎瑞貴・枝廣和憲・春日井敏之
152	松下健・山口権治・菱田準子・森俊郎・増田梨花	高校生を対象としたピア・サポートトレーニングの効果と効果の維持に関する検討	2015 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 14 回総会・研究大会	国立女性教育会館 (埼玉県)	
153	増田梨花	浦和学院高校での Peer っ Co.ルームの取り組み～Peer っ Co.ルーム設立 8	2015 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 14 回総	国立女性教育会館 (埼玉県)	小袋伸枝・松田東子・松下健・篠村健人

		年目の軌跡を通して～		会・研究大会		
154	井上彰	ロールズの反照的均衡についてーその基本的概要ー	2015年9月	生存学研究センター公開セミナー・ロールズの方法論と生命倫理	立命館大学(京都府)	
155	春日井敏之	大学院生を対象とした合宿型ピア・サポート・トレーナー養成のための研修講座の効果検証ー高大連携の取り組みにおけるトレーニング効果の考察を通して	2015年10月	日本ピア・サポート学会第14回研究大会	国立女性教育会館(埼玉県)	西川大輔・梶井亮・木戸口峻・原田有規・山崎瑞貴・枝廣和憲・増田梨花
156	春日井敏之	ピア・サポートプログラムを活かした高大連携の取り組みー院生の変容プロセスに焦点をあてて	2015年10月	日本ピア・サポート学会第14回研究大会	国立女性教育会館(埼玉県)	河美善・内田一樹・関塚倫子・畑中樹奈・藤田瑞紀・西川大輔・梶井亮・木戸口峻・原田有規・山崎瑞貴・増田梨花・枝廣和憲
157	春日井敏之	ピア・サポートプログラムを活かした高大連携の取り組みが、高校生の心的成長に及ぼす影響ーナナメの関係に着目して	2015年10月	日本ピア・サポート学会第14回研究大会	国立女性教育会館(埼玉県)	枝廣和憲・内田一樹・関塚倫子・畑中樹奈・河美善・藤田瑞紀・梶井亮・木戸口峻・西川大輔・原田有規・山崎瑞貴・増田梨花
158	服部雅史	遠隔連想課題における潜在の手がかりと認知抑制	2015年11月	関西心理学会第127回大会	関西学院大学(兵庫県)	西田勇樹・織田涼
159	服部雅史	問題解決における潜在ヒント効果の不安定性	2015年9月	日本認知科学会第32回大会	千葉大学(千葉県)	織田涼
160	服部雅史	洞察問題解決における反応抑制とアイデア抑制	2015年9月	日本心理学会第79回大会	名古屋国際会議場(愛知県)	西田勇樹・V. カストルディ・織田涼・L. マッキ
161	服部雅史	潜在メタ認知：問題解決における非意識的情報の非意識的コントロール	2015年9月	日本心理学会第79回大会シンポジウム：「思考の意識性と無意識性」	名古屋国際会議場(愛知県)	
162	服部雅史	潜在手がかりがアイデアを抑制するとき：遠隔連想における負の閾下プライミング効果	2015年7月	日本認知心理学会第13回大会	東京大学(東京都)	織田涼・西田勇樹
163	Hattori, M.	Individual differences in the use of cues during insight problem solving	2015年7月	The 37th Annual Conference of the Cognitive Science Society	Pasadena Convention Center (USA)	Orita, R.
164	北岡明佳	二種類の並置混色とホワイト効果	2016年3月	第49回知覚コロキウム	ホテルニュー水戸屋(宮城県)	
165	北岡明佳	自転車の走行環境整備における知覚心理学の活用についての研究	2016年3月	2015年度未来の京都創造事業・成果報告会	キャンパスプラザ京都(京都府)	對梨成一・林勇吾
166	北岡明佳	ふしぎな錯視ー錯視をデザインに活かすー	2016年2月	2016年色彩検定協会セミナー	東京都・大阪府	
167	北岡明佳	錯視のニューロサイエンス	2016年2月	立体協ラウンドテーブル〜錯視と視覚質感〜	東京工芸大学(東京都)	
168	北岡明佳	博士が教える科学教室 錯視工作	2016年2月	大垣市サイトピアセンター講演会	大垣市サイトピアセンター(愛知県)	
169	北岡明佳	2次刺激によるフットステップ錯視	2016年1月	日本視覚学会2016年冬季大会	工学院大学(東京都)	Stuart Anstis
170	北岡明佳	多原色光源表示装置を用いた色依存のフレーザー・ウィルコックス錯視の検証	2016年1月	日本視覚学会2016年冬季大会	工学院大学(東京都)	松元明子・辻村誠一
171	北岡明佳	画像と錯視	2015年11月	画像関連学会連合会第2回秋期大会	京都工芸繊維大学(京都府)	
172	北岡明佳	トリックアートに役立つ錯視	2015年10月	株式会社エス・デー内講演会	(株)エス・デー(栃木県)	
173	北岡明佳	錯視について	2015年10月	毛髪科学技術者協会(MGK)第140回学術大会		
174	北岡明佳	乗算的および加算の色変換による色の錯視	2015年9月	錯覚と数理の融合研究ワークショップ(第9回錯覚ワークショップ)	明治大学(東京都)	

175	北岡明佳	視線方向知覚の左方向優位性の個人差	2015年9月	フォーラム顔学2015(第20回日本顔学会大会)	中京大学(愛知県)	
176	北岡明佳	顔の美しさ・好ましき・魅力評価の不一致度の分析	2015年9月	フォーラム顔学2015(第20回日本顔学会大会)	中京大学(愛知県)	光廣可奈子・尾田政臣
177	北岡明佳	体験ワークショップ 錯視の世界を体験してみよう!(オカザえもんと対談)	2015年8月	体験ワークショップ 錯視の世界を体験してみよう!	岡崎地域文化広場(愛知県)	
178	Kitaoka, A.	Color constancy and the vein color illusion	2015年8月	38th European Conference on Visual Perception (ECP)	Liverpool University (UK)	
179	Kitaoka, A.	Spatial color mixture and its relevance to the Munker illusion	2015年8月	Illusion Parade, 38th European Conference on Visual Perception (ECP)	Liverpool University (UK)	
180	北岡明佳	錯視・だまし絵の心理学	2015年7月	京阪神地区6大学フェスティバル2015	立命館大学(京都府)	
181	北岡明佳	ようこそ錯視アートの世界へ(オカザえもんと対談)	2015年7月	錯覚体験ふしぎワールド	名古屋市科学館(愛知県)	
182	山本博樹	高校生への説明と理解支援モデル	2016年3月	立命館大学認知科学研究センター研究会	立命館大学(京都府)	
183	山本博樹	高校生における「先哲の思想形成過程」の理解困難性と支援可能性(2)―いかに支援が無効化するのか?―	2015年9月	日本心理学会第79回大会	新潟コンベンションセンター(新潟県)	織田涼
184	山本博樹	学習支援研究がひらく豊かな生涯(2)―高齢者への支援は日常生活の質を高めるか?―	2015年9月	日本心理学会第79回大会	新潟コンベンションセンター(新潟県)	織田涼
185	山本博樹	高校生における「先哲の思想形成過程」の理解困難性と支援可能性(1)―支援は読解過程を通じて有効か?―	2015年8月	日本教育心理学会第57回大会	新潟コンベンションセンター(新潟県)	織田涼
186	山本博樹	文系学生における統計の授業に関する調査	2015年8月	日本教育心理学会第57回大会	新潟コンベンションセンター(新潟県)	尾坂柚稀
187	山本博樹	WM容量の小さい学習者における手続的説明文の読解過程に対する支援可能性―本当に後置質問は役立つのか?―	2015年8月	日本教育心理学会第57回大会	新潟コンベンションセンター(新潟県)	小島淳一
188	吉沅洪	中国の421家族における力動と葛藤	2015年10月	第22回多文化間精神医学会学術総会	東京慈恵会医科大学(東京都)	
189	吉沅洪	在日中華圏出身者への心理社会的支援―留学生と残留孤児の支援から―	2015年10月	第22回多文化間精神医学会学術総会	東京慈恵会医科大学(東京都)	
190	吉沅洪	共感疲労、援助者支援と文化	2015年9月	日本心理臨床学会第34回秋季大会	兵庫教育大学(兵庫県)	
191	吉沅洪	動的家族描画法―方法、応用と研究	2015年8月	第5回表現療法国際シンポジウム	蘇州市第一中学(中国)	
192	吉沅洪	絵画療法におけるトラウマ表現	2015年8月	第九回華人心理学者学術検討会		
193	Yuanhong Ji,	ACT Training for the Taiwanese parents of children with disabilities	2015年7月	ACBS Annual World Conference 13	Seattle	Shinji TANI, Tzu-Chi LO, Nien-Hwa LAI
194	藤本学	ホームレスの就労自立支援に向けた発達障害傾向の1次スクリーニングテスト	2015年9月	日本心理学会第79回大会	名古屋国際会議場(愛知県)	
195	藤本学	社会に適応するために必要なSWITCH―ホームレスの実体験に基づく社会的スキル尺度の開発―	2015年8月	日本パーソナリティ心理学会第24回大会	北海道教育大学(北海道)	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	障がいのある子どもとその家族の支援、地域、社会の連携を考える研究会	立命館大学（京都市）	2015年5月	50	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（伴走的支援チーム）」
2	障がいのある子どもとその家族と支援者のための国際交流会	立命館大学（京都市）	2015年5月	50	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（伴走的支援チーム）」
3	講演会「デジタル時代のアクセシビリティ」	立命館大学（京都市）	2015年6月	100	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」 科学研究費助成事業「高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上：ICTによる図書館の活用」 静岡県立大学大学院国際関係学研究所附属グローバル・スタディーズ研究センター
4	映画上映会／討論会「ヘイトスピーチに抗する」	キャンパスプラザ京都（京都市）	2015年6月	50	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
5	アドバンスト研究セミナーVol9「青年期発達障害者の発達支援－見晴台学園大学の取り組みから－」	立命館大学（京都市）	2015年7月	30	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究」
6	研究会「精神障害者の意思決定支援～オランダのセルフヘルプの実践～」	キャンパスプラザ京都（京都市）	2015年7月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
7	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第6回「開発と障害当事者への支援」	立命館大学（京都市）	2015年7月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
8	企画展示「放射能が降ってくるービキニ事件と科学者西脇安」	立命館大学国際平和ミュージアム（京都市）	2015年9月	200	立命館大学生存学研究センター 立命館大学国際平和ミュージアム 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
9	講演会「核時代を生きた科学者 西脇安ビキニ事件からラッセル・アインシュタイン宣言まで」	立命館大学国際平和ミュージアム（京都市）	2015年9月	50	立命館大学生存学研究センター 立命館大学国際平和ミュージアム 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
10	第4回「精神分析と倫理」研究会——学校・自閉・精神分析——	立命館大学（京都市）	2015年9月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
11	オックスフォード大学リーズセンター連携 研究会「社会的養護の質についての公開研究会」	立命館大学（大阪府）	2015年9月	50	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（修復的支援チーム）」 オックスフォード大学リーズセンター
12	国際混合研究法学会アジア地域会議（第1回日本混合研究法学会）	立命館大学（大阪府）	2015年9月	200	日本混合研究法学会 国際混合研究法学会 立命館大学人間科学研究所 青山学院大学国際政治経済学部 浜松医科大学 ミシガン大学 静岡家庭医養成プログラム 宮城教育大学
13	生存をめぐる制度・政策 連続セミナー「障害／社会」第7回「精神障害のある人への法制と成年後見制度の課題」	立命館大学（京都市）	2015年10月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の〈学=実〉連環型研究（基礎研究チーム）」
14	映画「ユニバーシティライフ」上映＋今村彩子監督講演会「聞こえない／聞こえにく	立命館大学（京都市）	2015年10月	50	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ

	い人にとっての大学と情報保障」				社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (基礎研究チーム)」
15	ワークショップ「マイノリティをめぐる思想/政治:オーストラリアにおける白豪主義・ネオリベラリズム・アジアとの関係から」	立命館大学 (大阪府)	2015年10月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (基礎研究チーム)」
16	研究会「自閉症スペクトラム児をもつ母親のストレス日米比較研究・概要と中間報告」	立命館大学 (京都市)	2015年10月	30	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (伴走的支援チーム)」
17	映画上映会/公開対談企画「周防正行監督とみる, 映画「それでもボクはやってない」	立命館大学 (大阪府)	2015年10月	200	立命館 R-GIRO 法心理・司法臨床センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」
18	研究会「出生前診断における選択と合意——オーストラリアと日本の場合——」	立命館大学 (京都市)	2015年11月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (基礎研究チーム)」
19	公開研究会「対人支援における大学と社会実践の連携——これまでとこれから——(兼2015年度人間科学研究所年次総会)	立命館大学 (京都市)	2015年11月	70	立命館大学人間科学研究所 立命館大学生存学研究センター 立命館大学 R-GIRO 「電子書籍普及に伴う読書アクセシビリティの総合的研究」 立命館大学 R-GIRO 「文理融合による法心理・司法臨床研究拠点」
20	人間科学研究所アドバンスト研究セミナーVol.10 「ナッジ再考——自由・自律・責任——」	立命館大学 (京都市)	2015年12月	30	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」
21	研究会「読み書きが苦手な子どもに向けた新たなサポート方法の報告会～PowerPoint でできるテストの音声化～」	立命館大学 (京都市)	2015年12月	50	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (伴走的支援チーム)」
22	シンポジウム「多文化共生を振り返る——排外主義を乗り越えた未来を構想するために」	京都市地域・多文化交流ネットワークサロン(京都市)	2016年2月	50	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (基礎研究チーム)」
23	フェミニズム研究会第5回公開研究会「(抵抗)を描く——『レズビアン・アイデンティティーズ』合評会」	立命館大学 (京都市)	2016年3月	30	立命館大学生存学研究センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (基礎研究チーム)」
24	インクルーシブ医療総括研究会「インクルーシブな医療に向けて——実践・研究の課題を考える——」	立命館大学 (京都市)	2016年3月	30	立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究 (方法論チーム)」
25	シンポジウム「介護者運動が社会を変える! -「介護離職ゼロ」を問う」-	京都タワーホテル/立命館大学 (京都市)	2016年3月	400	男性介護者と支援者の全国ネットワーク 立命館大学人間科学研究所 (男性介護研究会)
26	シンポジウム企画「死刑えん罪とDNA鑑定」	TKC 東京本社(東京都)	2016年3月	200	日本版イノセンス・プロジェクト準備室(えん罪救済センター) 立命館大学 R-GIRO 法心理・司法臨床センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」 龍谷大学矯正・保護総合センター 科学研究費補助金(新学術領域)【法と人間科学】「犯罪者・非行少年処遇における人間科学的知見の活用に関する総合的研究」(代表:石塚伸一・龍谷大学)
27	シンポジウム「えん罪救済の新たな幕開け」	立命館大学 (大阪府)	2016年3月	200	日本版イノセンス・プロジェクト準備室(えん罪救済センター) 立命館大学 R-GIRO 法心理・司法臨床センター 立命館大学人間科学研究所「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」 龍谷大学矯正・保護総合センター

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	松原洋子	情報アクセシビリティ入門—読書権と障害者への配慮	立命館土曜講座	2015年5月9日
2	中鹿直樹	教えることと学ぶこと—障がいのある生徒への就労支援の実践から	立命館土曜講座	2015年5月30日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	松田亮三	日本学術振興会	審査員表彰<科研費>	審査員表彰<科研費>	2015年11月
2	松原洋子	日本学術振興会	審査員表彰<科研費>	審査員表彰<科研費>	2015年11月
3	藤本学	日本パーソナリティ心理学会	第24回大会優秀大会発表賞	社会に適応するために必要なSWITCH—ホームレスの実体験に基づく社会的スキル尺度の開発—	2015年8月
4	丸山里美	社会福祉学会	第3回福祉社会学会学術賞	女性ホームレスとして生きる—貧困と排除の社会学	2015年6月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	山本耕平	ひきこもる若者が実践主体となる支援の哲学・方法・制度の研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
2	松田亮三	変動する社会における社会保障公私ミックスの変容—量質混合方法論による接近	基盤研究(B)	2014年4月	2018年3月	代表
3	櫻谷真理子	児童養護施設退所者へのアフターケアと当事者活動の方向性	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
4	丸山里美	女性の貧困の実証研究に基づく女性福祉の構想—セクシュアリティ概念の再定義を通じて	若手研究(B)	2014年4月	2017年3月	代表
5	丸山里美	GIS活用による地域福祉アクターの情報共有化と多文化社会におけるネットワーク構築	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	分担
6	サトウタツヤ	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年	2016年3月	代表
7	サトウタツヤ	法と人間科学	新学術領域研究	2011年4月	2016年3月	分担
8	サトウタツヤ	生活史法による臨床物語論の構築と公共化	基盤研究(A)	2012年4月	2017年3月	分担
9	サトウタツヤ	ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法TEM	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
10	サトウタツヤ	原発事故からの被災者と地域の再生に関する総合的研究	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	分担
11	サトウタツヤ	治療的司法論の理論的展望と日本的展開：当事者主義司法の脱構築に関する学融的研究	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	分担
12	宇都宮博	成人初期における結婚生活に対するコミットメントの変容過程に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2017年3月	代表
13	土田宣明	運動抑制の加齢変化・反応タイプの違いに注目して	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
14	土田宣明	地域での高齢者のうつ予防の心理教育プログラムの開発と支援体制の構築に関する研究	基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	分担
15	谷晋二	子どもと保護者のメンタルヘルスを支える教員研修プログラムの開発	基盤研究(C)	2014年4月	2018年3月	代表
16	中鹿直樹	「緩やかな所属による組織活動」におけるキャリア・アップ支援に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
17	矢藤優子	幼児の描画検査におけるコンピュータ自動診断・自動採点システムの構築	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表

18	松原洋子	高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上:ICTによる図書館の活用	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表
19	安田裕子	ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に生きる質的研究法TEM	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
20	安田裕子	治療的司法論の理論的展望と日本の展開—当事者主義司法の脱構築に関する学際的研究	基盤研究(B)	2014年4月	2017年3月	分担
21	徳永留美	空間の明るさと影の知覚に基づいた明度知覚モデルの構築	若手研究(B)	2014年4月	2016年3月	代表
22	稲葉光行	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年4月	2016年3月	分担
23	稲葉光行	子どもを中心とした地域創造のための協働学習活動—活動理論にもとづく研究開発—	基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	分担
24	松本克美	児童期の性的虐待被害者のレジリエンスを支援する時効法改革の提言	新学術領域研究	2014年4月	2016年3月	代表
25	松本克美	大震災・放射能被害復興の居住福祉法学と所有・責任・コミュニティの変容・再構築	基盤研究(B)	2012年4月	2016年3月	分担
26	渡辺克典	病・障害当事者による災害支援活動をめぐる組織間ネットワーク研究	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2016年3月	代表
27	北岡明佳	錯視の多面的研究—実験心理学・脳機能画像・数理解析・生物学的手法を用いて—	基盤研究(A)	2015年4月	2019年3月	代表
28	東山篤規	視空間と触空間における直線の平行性と収斂性:ユークリッド空間説の検討	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
29	服部雅史	創造的認知の潜在性と意識のコントロール	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
30	稲葉光行	メタバースを用いた日本の伝統文化及び生活文化の状況学習支援環境に関する総合的研究	基盤研究(B)	2015年4月	2020年3月	代表
31	中鹿直樹	障害者のキャリア支援のためのポートフォリオとそれを拡充する実習場面の機能分析	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
32	大谷いづみ	生命倫理学・死生学における安楽死・尊厳死論の変容とキリスト教の歴史的社会的影響	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
33	中村正	親密な関係における暴力加害者の特徴と暴力から離脱する過程の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
34	井上彰	カタストロフィの分配的正義論	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
35	斎藤進也	立方体型情報ビューアによる視覚的データ管理手法の構築	基盤研究(C)	2015年4月	2018年3月	代表
36	サトウタツヤ	グローバリゼーション時代における新しい心理学史の叙述	挑戦的萌芽研究	2015年4月	2018年3月	代表
37	玉置えみ	家庭と仕事の両立と女性の健康:国際移住による社会環境の変化に注目して	若手研究(A)	2015年4月	2018年3月	代表
38	由井秀樹	戦後日本の男性不妊と男性性に関する歴史研究	若手研究(A)	2015年4月	2017年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	稲葉光行	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連携型研究	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	2013年6月	2016年3月	代表
2	村本邦子	家族漫画を中核装置としたアクションリサーチによる「心の防災」の理論化の試み	JR西日本あんしん社会財団	2015年2月	2016年3月	代表
3	北岡明佳	自転車の走行環境整備における知覚心理学の活用についての研究	大学コンソーシアム京都 未来の京都創造研究事業	2016年6月	2016年3月	代表
4	安田裕子	多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装	JST/RISTEX 戦略的創造研究推進事業	2015年11月	2020年3月	分担
5	由井秀樹	体外受精研究のフレームに関する歴史研究 -1960~80年代の日本の展開	公益財団法人上廣倫理財団	2015年2月	2016年1月	代表

6	木戸彩恵	化粧品由来の後天的な容貌の問題（ディスフィギュアメント）と法心理的アプローチによる支援の検討	公益財団法人上廣倫理財団	2015年2月	2016年1月	代表
---	------	--	--------------	---------	---------	----

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1	篠田博之	眼疲労測定装置	本学以外	その他	2009-012323	2010-167092		